あこう通信

「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校を創ろう

～「いい顔　いい声　いい心」～

発行：令和７年６月１８日（水）NO.１３文責：副校長　津田　幸一

学校 HP　URL http://www.nagasaki-city.ed.jp/kosakaki-e/index.html　（２次元コードからどうぞ）

心を見つめる教育週間にちなんで

さて、教育週間の中日です。
子供たちは「命の大切さ」に考えることを通して、それぞれが自分の成長を改めて見つめ直す期間です。各学年・学級での様々な取組を通して、一人一人がよりよい自分を創っていっていくよう指導します。
さて、ふとある HP を覗くと、学校での子供たち同士の関りについてモデルとなるような、心温まるエピソードが掲載されていました。
紹介します。ご一読ください。

6/16　校長講話

阪神淡路大震災で起こった悲劇から、「あなたの命はあなただけのものではない」というメッセージを伝えました。
子供たちは、「あなたの命を大切に思う人を、悲しくさせたり、さみしくさせたりしてはいけない」という言葉の意味をしっかりと受け止めていました。

子供に伝えたいちょっといい話

小学校２年生の息子が、２学期の途中から、毎朝、学校に行くのを嫌がるようになりました。それまでは、元気に楽しそうに学校に通っていたので、急に息子が朝、家を出るのを渋るようになり、びっくりしました。
息子も学校に行こうという気持ちはあるらしく、寝る前に次の日の荷物の準備をし、朝起きると、朝御飯を食べ、制服に着替え、玄関まではなんとか出るのです。私も、息子を励ましながら、手をひいて、家から２０メートルほど離れた登校班の集合場所まで送って行こうとするのですが、泣きながら息子の足は、そこで止まるのです。
息子が通っている学校は、登校班といって、近所の子供たちが集まって、高学年の子供が班長や副班長になって並んで通学することになっています。
息子が学校へ行き渋るようになって、私は、他の子供たちが学校へ行き渋る息子のために学校に遅刻してはいけないと思い、玄関前で泣いている息子を置いて、班長さんに先に行ってくれるように声をかける日が何日か続きました。なぜ学校に行くのが嫌なのか、息子にいろいろ聞いてみるものの、何も言わない息子にどうしたものかと親の私もとまどい、毎朝玄関先で泣く息子の手を握りしめながら、私も涙が出てきました。
そんな日が何日か続き、その日も、班長さんに先に行ってくれるように言いに行った後、玄関先で息子をなだめていたら、登校班の副班長さんと４年生の男の子が息子を迎えに戻ってきてくれたのです。私は２人が遅刻してはいけないと思い、お礼を言って先に行くように言うと、
「僕たちは大丈夫。僕たちが遅れたら、先に行った班長さんが、ちゃんと遅れた理由を先生に話してくれるから。それよりも、〇〇君が、この間から一緒に僕たちと学校に行けないのが心配。登校班のみんなもすごく心配しているよ。〇〇君、僕たちがいるから、一緒に学校に行こう。」
と言って、泣いている息子の手をにぎりしめてくれました。私が何を言っても行き渋っていた息子も、その言葉を聞くと、泣き止んで、学校に行く気になったようでした。
男の子たちは、
「おばちゃん、明日から、僕たちが玄関まで迎えに来るよ。〇〇君、待っててね。さあ、行こう！」
と、息子の手を引っ張って、一緒に学校に連れて行ってくれました。
その言葉どおり、次の日から、男の子たちは毎朝息子を迎えに来てくれ、息子も行き渋ることなく、学校に通えるようになりました。
息子が登校班で行けなくなってから、登校班のみんなが心配してくれていたそうです。みんなで迎えに行くと、みんなが遅れてしまうので、班長さんは、班のみんなを学校に連れて行き、副班長さんと息子と仲の良かった４年生の男の子が迎えに行くことにしようと相談してくれていたそうです。そのおかげで、息子はあんなに行き渋っていたことが嘘のように、今では元気に学校に通っています。
息子のことを気にかけ、子供たちで相談して、息子のために行動してくれたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そして心の優しい素晴らしい子供たちがいることを知ってもらいたくてお知らせします。
本当にありがとうございました。

広島県公式ホームページ
「子どもに伝えたいちょっといい話」